

セメスター留学便り 12月号

長いようで短かった四ヶ月もあっという間に過ぎ、今年度のセメスター留学便りも今回が最後です。12月は全員参加の HSK 試験に始まり、総合試験、発表会とイベントが目白押しでした。帰国前にやりたいこと、行きたい場所を駆け回る人も多く、さみしくも忙しい一ヶ月でした。

今年の天津は例年より暖かいようで、雪が降ったのは一度きりでした。大掛かりな冬支度をせずに乗り切れ、ありがたかったとも感じています。

○交流会

12月7日の午後は、天津市郊外にある浜海学院を訪問しました。私たちを迎えてくれたのは学院で日本語を学ぶ三年生です。日本の「さんぽ」を練習し、最後には声を揃えて合唱しました。中国でもジブリアニメはよく知られているものの、主題歌を日本語だけで歌うのは初めてとのこと。歌詞の説明など、普段やらないことを慣れない言葉で行うのはなかなか大変でした。

その後は二年生たちとの交流会です。日本人学生と中国人学生が二人一組で単語を当てるゲームを行いました。中国の学生たちの学習に対するモチベーションは総じて高く、良い刺激を受けられました。

○誕生日会

生活班のみんなの企画で12月の誕生日会が開かれました。場所は恒例の桃花源です。セメスター留学組全員揃っての食事は今回で五度目、いつもより豪華なケーキも振舞われ、和やかな食事会となりました。(上三項 塩野谷美奈)



○ワイン工場見学

当初の予定では11月の初めに行く予定だった工場見学だったのですが、ほかのイベントと重なって12月10日に行くことになりました。DYNASTY というワイン工場だったのですが、初めに代表者がワインの歴史の説明、味わい方の説明をこまごまとしていただき、実際にワイン完成までの工程を見学しました。通訳さんがいたので困ることはありませんでした。生徒たちが最も期待していたのは、ワインの試飲です。地下にあるワイン貯蔵庫で金賞を取った白ワインと会社自慢の赤ワインをいただきました。すごくおいしかったです。中にはおかわりする学生もいました。(谷口俊大)

○周恩来記念館

南開大学といえばあの有名な周恩来が卒業した大学ですが、それにちなんでか大学のすぐ近くに周恩来の記念館があります。12月16日に行きました。中にはいるとそこは周恩来の生い立ちを順にみることができ、さまざまな活動、マルクス主義への関心など彼に関することがすべて詰まっていました。(谷口)



○発表会

最後の発表会での京劇披露。この日は京劇を選択した私たちにはとてもあわただしい1日でした。

今までの練習とは違いはじめて本格的な京劇のメイク・衣装を着るとうことで朝から楽しみにしていました。しかし、メイクをはじめてこれがとても大変だということがわかりました。ひび割れしないために表情をあまり変えないようにいわれていましたが、周りの顔を見るとそれだけで笑ってしまう状況でした。

衣装を初めて着た感想は、服は重く、頭飾りは痛く、背中の飾りを支える帯は苦しいといったものでした。私たちが実際に着ていたのは30分もない間でしたが、本物の京劇でもっと長い時間これを着て演技を行うことを考えると感無量というほかありません。



いざ本番を迎えるととても緊張しましたが、練習の成果を発揮できたこと。なにより最後まで楽しんでできたことが私の心に強く残っています。(池内駿斗)

○留学生活を支えてくれた班長二人から感想を頂きました

二胡選択者の生徒は複数の演目に参加するため、準備が大変でした。個人で練習できるものもあれば全体で練習しなければいけないものもありました。特に自主制作の劇の練習は、先生たちの厳しい指導と助言のもと進められ辛かったです。(小林加奈)

今回の留学に参加して、普段経験できないことを経験しました。万里の長城などの世界遺産に実際に行ってみたり、文化や人に触れ、普段は抱かない気持ちを抱いたり、とても為になる留学であったと思います。(田原彰悟)



二胡発表風景



左：京劇男子発表

右：京劇女子発表

中国での四ヶ月は毎日が驚きの連続でした。中国人との交流も同じです。中国という「異文化」に迷わず飛び込めたのは、同じ学校の皆がいる安心感があったからこそだと思います。大きな怪我・病気をする人もなく留学を終えられ本当に良かったです。